

教育子午線

Kyoiku-Shigosen

February, 2010

vol.22

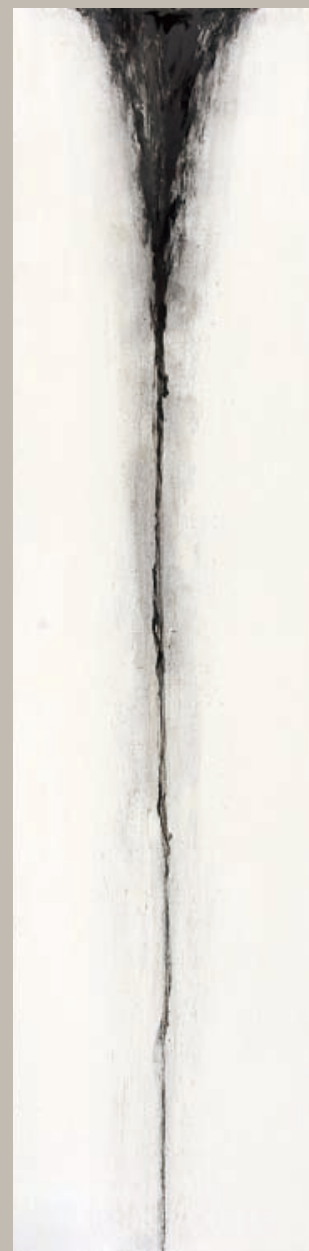


兵庫教育大学

◎キャンパス通信

◎うれしの交差点

◎研究レポート 古生代／中生代境界直後の
竹村厚司 放散虫群集の変遷



◎特別企画

「教材文化資料館」へ
ようこそ



〈確かな学力〉のための 評価の再認識を

学長 梶田 毅一
かじ た へい いち

新しい学習指導要領で強調されている〈確かな学力〉を子ども一人一人に着実に実現していくうえで、不可欠の重要性を持つのが評価です。

日本の教育界には、印象や心情で教育を語ってそれで終わり、という悪しき伝統が根強く存在しています。「子どもの目がキラキラ」とか「みんなイキイキ」とか、印象で教育を語ってきた向きが、「ゆとり教育」の風潮の中で、つい最近まであったのは周知のことです。また、「子どもに寄り添って」「子どもへの無償の愛情を込めて」「誠心誠意」教育に取り組んでいます、といった美談仕立ての実践報告や現場レポートも、いまだに散見されます。しかし、教育は結果が出なくてはどのようになりません。「わかった」「できるようになった」「気づいた」

「力がついた」「しっかりしてきた」といった結果から教育を捉え、それに基ついて、次の教育的取り組みの在り方を考えよう、というのが教育評価の思想です。

平成17(2005)年11月に「全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議」が設置され、翌年4月に出された報告に基づいて、19(2007)年4月から全国学力・学習状況調査が実施されてきました。今回の学習指導要領が〈確かな学力〉の育成を図ろうとするものであるのに対し、全国学力・学習状況調査は〈確かな学力〉という結果が、子どもにどのように実現しようとしているか、その実態の概要を見てとり、それを一人一人の指導に、学級や学校での教育的取り組みに、市町村教育委員会や学校法人の学校運営方針策定や教育条件整備に、

都道府県教育委員会や文部科学省の指導助言、教育予算の在り方に反映させようというものであったことは、あらためて言うまでもありません。

〈確かな学力〉の実態の概要を把握しようとしたからこそ、国語でも算数・数学でも、知識・理解に関するA問題だけでなく、思考力や問題解決力を見るB問題が(費用が掛かるにもかかわらず)論述式問題を含め(設定され、質問紙調査の形で「関心・意欲」を見るための項目が準備されました。また、抽出でなく悉皆調査の形が取られたのも、教育活動レベルで〈確かな学力〉の育成に調査結果を活用しようという意図があったからこそです。さらに、質問紙調査によって子どもの生活態度や学習習慣など〈確かな学力〉の形成の土台となる事情につい

ても把握し、それと学力実態とを関連つけて分析することにしていく点も、学力向上のために教員が、学校が、具体的に取り組みべき課題を教室の外の諸条件まで含めて明らかにしようとしたからです。

全国学力・学習状況調査も、22(2010)年度からは予算削減のありを食って、悉皆調査から抽出調査へと修正を余儀なくされていますが、当初のこうした目的だけは何とか果たせるような形で運用をしたいと我々は考えています。

もう一つ、新しい学習指導要領の全面実施に歩を合わせて、指導要録の様式記入法についての検討も進められており、今年3月には公表される予定です。これは中央教育審議会の教育課程部会の下に置かれたワーキンググループを中心に議論が進められていますが、様

式記入法といった外的側面はこれまでのものとそう大きな変更がありません。しかしながら、成績評価の在り方を、評価結果を基にして子ども一人一人の学力向上につなげていくという形成的評価の考え方によって活用できるものの一層近づけられるよう、今後の実践的工夫が必要であることを強調したいと考えています。

こうした現在の状況において、評価についての理解を深め、その教育的に不可欠の意義を再確認しておくことが必要でしょう。欧米では今、何かにつけ「エビデンス・ベースド(明らかな事実に基づいて)」が言われます。1970年代の「自由で個性を伸ばすオープン教育(欧米版ゆとり教育)」から立ち直っていく80年代以降、「アウトカム・ベースド・スクール(結果を重視する学校)」とか「コンピテンシー・ベースド・エデュケーション(学力保障の教育)」とかが広く言われていたことも思い起こします。日本の学校教育も今こそ、足が地に着いた取り組みを中心としたものに育てていきたいものです。



↑教材文化資料館開館式



↑附属小学校「うれしのカーニバル」



↑加東市・兵庫教育大学連携公開講座「化石を知ろう」

Campus Topics

10月

- 1日 ◎創立記念日
◎教材文化資料館開館式
- 3日 ◎大学院説明会(神戸・岡山)
◎附属小学校「うれしのカーニバル」
- 10日 ◎附属幼稚園運動会
- 14日~16日 ◎附属小学校5年生林間学校
- 24日 ◎教育実践学フォーラム
- 31日 ◎附属幼稚園研究発表会

11月

- 5日、12月6日・8日 ◎加東市・兵庫教育大学連携公開講座「みんなで子育て、楽しく子育て」
- 7日 ◎北播磨5市1町と兵庫教育大学との連携公開講座「親と子の『きずな』から考える発達障害の理解」
- 11日・13日 ◎附属小学校「附小っ子コンサート」
- 14日 ◎大学院学校教育研究科 入学者選抜試験
- 16日・17日 ◎附属中学校「友嬉祭」
- 18日~20日 ◎附属小学校6年生修学旅行
- 21日 ◎加西市・兵庫教育大学連携公開講座「日本語だけでグローバルなコミュニケーションをするインターネットの新しい使い方」
- 21日・22日 ◎大学祭「嬉望祭」
- 22日 ◎教育・社会調査研究センター 国際シンポジウム2009

12月

- 28日 ◎加東市・兵庫教育大学連携公開講座「化石を知ろう」
◎大学院GP国際シンポジウム
- 12日 ◎附属幼稚園「ふよっこカーニバル」
- 13日 ◎日本教職大学院協会 創設記念シンポジウム
- 15日 ◎附属小学校マラソン大会
- 18日 ◎附属幼稚園第2学期終業式
- 24日 ◎附属小学校・中学校 第2学期終業式

1月

- 7日 ◎附属中学校第3学期始業式
- 8日 ◎附属小学校第3学期始業式
- 12日 ◎附属幼稚園第3学期始業式
- 13日 ◎附属小学校 平成22年度入学児童選考
- 16日 ◎附属中学校 平成22年度入学生徒選考
- 16日・17日 ◎平成22年度 大学入試センター試験
- 26日 ◎学校教育学部推薦入学者 選抜試験
◎附属中学校立志式
- 27日 ◎附属幼稚園 第3回幼年教育研究会
- 28日・29日 ◎附属小学校研究発表会

目次 Contents

16 14 12 11 10 09 08 06 04

兵庫教育大学からのお知らせ

「商店街の寺子屋」に潜入！
子どもたちと学んで遊んで
放課後を充実した時間に

うれしの交差点

キャンパス通信

同窓生からの手紙

私たちの先生
古川雅文教授(基礎教育学系)

教育時事一問一答
教員の著書紹介

研究レポート
古生代／中生代境界直後の
放散虫群集の変遷
竹村厚司(自然生活教育学系准教授)

特別企画
「教材文化資料館」へようこそ
教員の実践課題の解決をアシストする
「教材開発システム」が間もなくスタート

表紙

表紙



「愛しくて」

小林小貴さん作(学校教育学部芸術系コース4年)
2009年 370cm×90cm×3枚
アクリル、水彩、木炭、ペンキ、墨汁・板

「教材文化資料館」へようこそ



教育の歴史を振り返り
現代の教育を考える

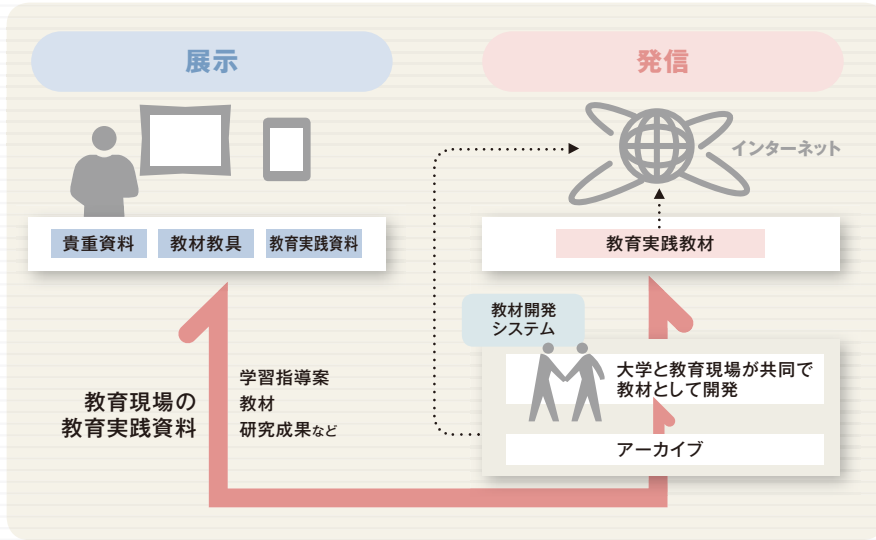
昨秋オープンした「教材文化資料館」

「館」は、兵庫教育大学の教育実践研究、学校や地域、家庭での教育実践の改善に役立てることを目的に、明治以降の実践資料や教材などを収集、保存、展示する資料館です。教育関係者はもちろん、一般の方もさまざまな展示物を通して、教育の変遷や現在の学校現場の取り組みが分かる興味深い内容となっています。

現在の主な収蔵品は、兵庫教育大学が所有する教育実践資料や教材をはじめ、明治時代から第2次世界大戦後までの教科書、全国の学校と教育機関から取り寄せた学習指導案や通知表のサンプル、地域の方から寄贈された学校生活にまつわる資料や昔の教科書、教材など多岐にわたります。それらを随時、企画展で公開します。

企画展ごとに展示方法にも工夫を凝らし、その時代背景や教材がどの

◎「展示」と「発信」を軸とした活動



昨年10月、兵庫教育大学の創立30周年記念事業の一環として、加東キャンパスの附属図書館内に「教材文化資料館」がオープンしました。同館は、明治から現在に至るまでの貴重な教育実践資料や教材などを展示するとともに、学校現場での教育実践に役立つ新しい教材を開発、発信していきます。

教材文化資料館の 主な収蔵品

●明治期、 戦前戦後期の教科書

明治初期の学制発足時から第2次世界大戦後にかけての貴重な教科書。



『飾磨県下等小学校教授法 二』
鳥海弘毅著／小川金助出版
明治8(1875)年
飾磨県(現在の姫路市夢前町と家島群島)で発行された小学校教授法

『尋常小学校新体読本巻一』
金港堂書籍 明治27(1894)年
明治19(1886)年の小学校令で始まった
教科書検定制度時代の民間読本



ように活用されてきたかなどの解説を添えて、現在の教育実践に応用できそうなヒントを提案します。

優れた教育実践資料を基に 新しい教材を開発、発信

歴史的価値の高い資料の展示とともに、同館の中核となるのがインターネットを使った「教材開発システム」による教育実践資料のアーカイブ（保管庫）の構築と新しい教材の開発です。全国の学校から集めた学習指導案などの教育実践資料を電子データ化し、ウェブサイトで発信。さらに特微的な資料を基にして、兵庫教育大学と学校現場が共同でより優れた教材に仕上げて発信し、授業実践の課題解決につなげていきます。

将来は大学全体を ミュージアムに

収蔵品のほか、兵庫教育大学の教員がそれぞれに所有する教育実践資料も数多くあり、教員をめぐる学生たちがそれらに触れることは有益なことです。そこで、今年4月に加東

キャンパスの「自然、生活・健康棟」に「分館」を設置し、教員から提供された資料を展示します。今後、各研究棟の特色を生かした分館を増やしていきたいと考えています。

開館にあたり、地域の方からも昔の教科書や教材など多数の資料を寄贈していただきました。これからも同館は生涯学習の拠点としての機能も充実させ、地域の教育力の向上に努めていきます。学びの歴史を訪ね、新しい学びを発見する。皆さんの来館をお待ちしています。



誰もが楽しめる企画展を開催します

おおす がきよし
大須賀潔

教材文化資料館チーフ・コーディネーター

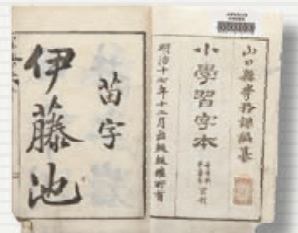


博物館は建物、展示品、そして運営する人の「ハコ・モノ・ヒト」が大事です。教材文化資料館の展示室を本丸とするならば、各研究棟に専門的な分館を出城のようにつくっていくのは面白い発想だと思います。

当館は収蔵品の「展示」と教材開発システムに代表されるインターネットを活用した「発信」が活動の2本柱です。教育大学の博物館ですから、教員の参考になるのは当然ですが、展示品に添える解説などは一般の方も十分に理解できるようにしています。訪れた方が「また来たい」と思うユニークな企画展を開催していきたいですね。また、遠方の来館できない方のためにホームページで展示品を紹介したりと、パッチャルで楽しめる構想も練っています。

●往時の学校生活に 関する資料

昭和初期の生徒の日記や成績表、戦時中の師範学校の生徒が学校生活を描いた水彩画などがあります。



『小学習字本 尋常科第二学年 前期』
山口県学務課編纂 明治17(1884)年
山口県の習字教科書。手本として名字が
選ばれている

「シュート」 昭和19(1944)年ごろ



「銃剣道具練習で目の前がちらちらする」
昭和19(1944)年ごろ

「講義」 昭和19(1944)年ごろ



教員の実践課題の解決をアシストする「教材開発システム」が間もなくスタート

学校現場の課題解決に向けて、教材文化資料館では今年4月から「教材開発システム」の試験運転を始めます。全国の学校から集めた教育実践資料をウェブサイトに公開し、そこから兵庫教育大学と学校現場が共同で新たな教材の開発に取り組みます。

学校現場の教員はさまざまな課題と向き合っています。新しい学習指導要領の施行が刻々と迫る中、教員は校務に追われる多忙な毎日で、明日の授業の準備すらもままならない状況です。若い教員は授業で直面する問題について先輩教員に尋ねたくても、先輩も忙しく十分に答えられないなど、現場で学ぶ機会がきわめて少ないといえます。

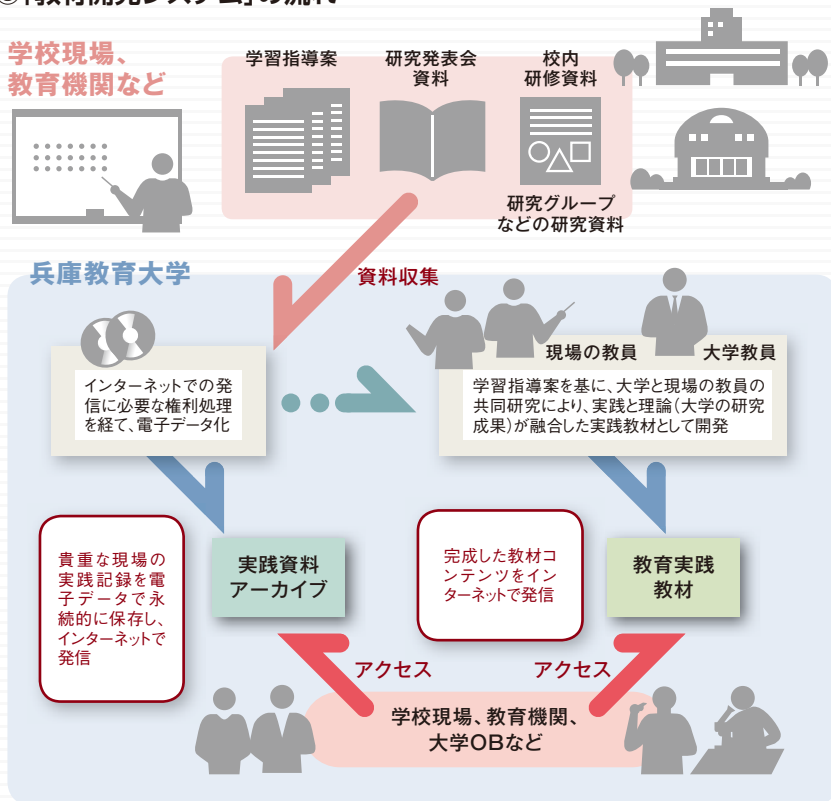
このような状況を踏まえ、教材文

化資料館では今年4月からインターネットを使った「教材開発システム」の試験運転を始めます。同システムは「実践資料アーカイブ」と「教育実践教材」の二つの機能により、教員の課題解決を支援します。

■実践資料アーカイブ

全国の学校から集めた研究発表会や校内研修などの教育実践

◎「教材開発システム」の流れ



●現在の学校現場での授業実践に関する資料

兵庫教育大学が収集してきた文部科学省指定の研究開発学校や兵庫県内の研究指定校などの研究報告書、発表会資料、連携協力校の学内研修資料や学習指導案がそろっています。また、昭和50(1975)年度と平成5(1993)年度の通知表全国調査で収集された通知表のサンプルと基礎データ、通知表・教育評価に関する研究資料もあります。



●山田卓三寄贈資料

山田卓三兵庫教育大学名誉教授(発生遺伝学・科学教育学)が収集してきた資料群。江戸末期から昭和に至る自然科学分野の研究者、牧野富太郎やメンデル、南方熊楠、大賀一郎などの直筆資料や写真、関連書籍があります。ほかに、内村鑑三の直筆原稿、野口雨情や北原白秋の書簡なども。



【結納帖】
牧野富太郎/私家帖装本 年代不明
植物学者、牧野富太郎の私的な一面も垣間見られる雑記帳

企画展のお知らせ

開館記念展示

「学校教育をめぐる教材と文化」 3月30日まで

明治初期の学制発足時から第2次世界大戦後までにスポットを当て、各時代の教科書をはじめ、戦時中の生徒が描いた学校生活の水彩画、昭和初期の学校生活に関する資料などを展示。山田卓三兵庫教育大学名誉教授から寄贈された植物学者や博物学者に関する資料、理科の手作り教材、ドイツの教育者フレーベルの恩物も見どころです。



「自然、生活・健康棟分館」

開館記念展示

「観察—自然美の発見」 4月20日～8月30日

本館と自然、生活・健康棟分館で、理科の「観察」をテーマに、植物の生長を記録した連続写真や生物のスケッチ、理科教科書や標本、教材などを展示します。自然が見せる美について科学者と芸術家の視点を比べたりもします。本館の開館以降に寄贈された歴史的な教育資料や教育実践資料なども紹介する予定です。

教材文化資料館の利用について

◎開館時間 平日8:30～22:00

土曜9:00～17:00

日曜・祝日13:00～17:00

※授業休業期は平日8:30～17:00(9月は20:00まで)

◎休館日 授業休業期の土曜、日曜、祝休日と月末の平日(5・6・10・11月は除く)、年末年始 ※臨時休館もあり

📍兵庫教育大学教材文化資料館

☎ 0795-44-2362(平日9:00～16:00)

☎ 0795-44-2364

<http://www.lib.hyogo-u.ac.jp/museum/index.html>

■教育実践教材

実践資料アーカイブの中でも特色のある学習指導案を選び、作成者(学校教員)と大学教員がシステム上で新たな

資料を電子データ化し、保存します。学校や教育機関は登録すれば自由に閲覧でき、グループなどのサーチエンジンによって目的の資料が容易に見つけられます。学校にとって教員の異動などによって散逸しがちな実践資料を永続的に保存できるとともに、校外に向けて効果的な発信を実現します。また、兵庫教育大学の連携協力校向けには、直接新規に資料を登録できる機能も備えています。

提案を検討したり、理論面での補強を加えたり、参考情報を添えたりします。作成者が授業で展開した結果も踏まえ、改訂を重ねていき、より優れた指導案に仕上げます。改訂のたびに公開データを更新するので、第三者にも開発の過程が分かります。この成長するデータベースを学校教員向けの教育実践教材として公開。大学がこれまでに取り組んできた教育研究の成果や授業ビデオなど関連資料にもリンクさせる予定です。学校現場の教員の皆さんは、授業を組み立てるヒントとして、自身の研究を進めるうえでの参考資料として、ぜひ「教材開発システム」を活用してください。

ご家庭に昔の教科書や教材が眠っていませんか

教材文化資料館では収蔵品の充実を図るため、教員(退職者も含む)や地域の方から資料の提供をお願いしています。

<教員の方>

- 文部科学省や教育委員会等からの指定研究の発表会資料・報告書
- 校内や研究グループ等における研修資料
- 学習指導案、授業記録
- 独自で作成した副読本や補助教材資料
- 教材・教具

<地域の方>

- 昔の教科書(江戸期～昭和期)
- 昔の教材・教具(算数セットなど)・遊具
- 学校教育、学校生活に関する資料(夏休みの宿題帳、授業風景の写真など)



『解体新図 全』
鈴木幹太編集/
南山堂書店
大正3(1914)年
ページを開くと人体図から
内臓が飛び出す仕掛けに
なっている

『訓蒙 窮理図解』全3巻
福沢諭吉/慶應義塾
明治4(1871)年<再刻>
「小学教則」に挙げられた教科用図書の一つ



このページでは日本学術振興会の科学研究費補助金を受けた研究を紹介し、科学研究費補助金とは、すべての分野の「学術研究」を格段に発展させることを目的に、独創的・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基盤研究、萌芽研究、若手研究などに分かれており、基盤研究は1人または複数の研究者が共同で行う研究が対象。研究期間は2～4年です。



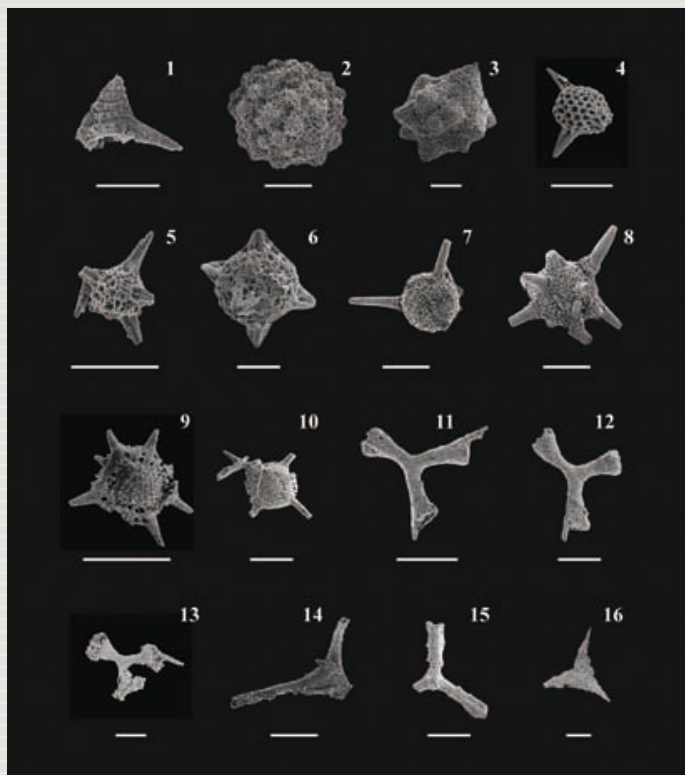
研究レポート



たけむら あつし
竹村厚司

自然・生活教育学系准教授

Report of Research



↑アローロック스에서発見した三疊紀最前期(約2億5000万年前)の放射虫化石の電子顕微鏡写真。この時代の放射虫化石は世界中でアローロックスで見つかっておらず、これらの種の多くは古生代/中生代境界を生き延びました(「Takemura et al., 2007, GNS Science Monograph 24」より)

地 球の歴史上、生物の大量絶滅事件が何度か起こったことが知られています。中でも最大規模だったのが、三葉虫やフズリナが絶滅した約2億5000万年前の古生代/中生代境界で、ペルム紀/三疊紀境界とも呼ばれます。この時期には、地球の全生物種の90%以上が絶滅したという研究も



↑昨年3月、アローロックス最南端の波打ち際に露出する三疊紀最前期のチャート層を調査しました

古生代/中生代境界直後の放射虫群集の変遷

(平成21～23年度科学研究費補助金・基盤研究に採択)

あります。中生代末の約6500万年前にも、隕石が地球に衝突して恐竜などが大量絶滅しましたが、古生代末のそれにははるかに及びません。大量絶滅については、大規模な火山活動、海洋の無酸素化、天体の衝突、地球温暖化など数多くの原因が考えられています。

これまでの古生代/中生代境界に関する多くの研究は、浅い海に堆積した地層や化石から推測するものでした。当時の海洋の大部分を占める深海の堆積物はプレート沈み込みによって失われています。しかし、日本やニュージーランドのような変動帯には堆積物が陸側に付け加わった地層があり、チャートという岩石になっています。このチャートは、私が学生時代から研究している放射虫化石が集まってできたものです。

日本は古生代/中生代境界の放射虫化石の研究が盛んです。それによると、古生代末から中生代の初め、特に三疊紀の前期にはチャート層があまり見られず、黒色の泥岩などが堆積しています。これは海中に酸素

が乏しくなる「海洋貧酸素事件」が長期間続いたことによるものとされ、大量絶滅の一つの原因になったと考えられています。当時の海の主要なプランクトンである放射虫も三疊紀前期の地層にはほとんど発見されていません。

私は他大学の研究者とともに10年以上前からニュージーランドの放射虫について研究を進めてきました。その過程で、同国北島のアローロックスに、世界では類を見ない三疊紀最前期のチャート層が露出していることを発見しました。このチャート層からは、これまで全く知られていなかった中生代最初期の放射虫化石が産出しますが、どれも古生代型ばかりです。つまり、古生代の放射虫はペルム紀/三疊紀境界で全てが絶滅したわけではなく、三疊紀の前期に徐々に群集が変化していったように見えます。

今回の研究では、アローロックスの新たな地層を調査して放射虫化石を探索し、三疊紀最前期の群集の変遷を知りたいと考えています。



さか ぐち たか やす
坂口隆康
自然・生活教育学系特任教授

教育時事 一問一答

若い教員を育てるうえでも
学校経営に求められる
職場の環境づくりとは

前 途有望な若い教員が、念願の教職に就いたにもかかわらず、わずか数年で退職するケースがあります。その理由の一つに職場での孤立感を挙げています。

例えば、医療や法律の従事者たちは訓練されたチームワークのもと、協同的な問題解決の一連の行動を通じて、個々の専門性を向上させながら課題解決に当たっています。しかし、同様な専門職である教員の場合、協同的な作業が十分に行われているとは言い難く、「学級王国」という言葉があるように独り善がりな指導になりがち

です。ますます厳しくなっている学校内外の課題にひるむことなく対応し、それを解決する源泉は「協同的な学校風土(=同僚性)」に支えられた“学校力”といえます。

これから学校現場には若い教員が増え続けていきます。学校はフラットな学校組織の利点を生かし、教員同士による協同的な課題解決作業を通して、達成感と一体感を共有しながら課題に対応していくことが重要です。協同的な学校風土づくりは、OJT(On-the-Job Training=職場内職業指導)を進めるためにも大きな力になるはずです。

Question & Answer

教 員の力量を高めるフィールドは、教員が最も時間を費やし、子どもに向き合っている学校現場です。「OJT」とは「On-the-Job Training」の略で、職場における仕事を通じた能力開発であり、

本書は、学校の特性に応じた人材育成の新たな手法を開発し、学校教育関係者に提案しています。執筆者は兵庫教育大学教職大学院の教員をはじめ、現職教員大学院生や修了生、大学院生が在籍する学校の校長たちです。教職大学院での学びの成果としても読んでいただきたいです。(浅野)



学校におけるOJTの効果的な進め方

編集:浅野良一(基礎教育学系教授) 教育開発研究所・平成21(2009)年刊

教員の 著書紹介

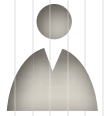


兵 庫教育大学学校教育学部では平成14(2002)年度から保育士養成に取り組んでおり、毎年約40人の学生が保育士資格(国家資格)を取得し、そのうち約3割は保育所で活躍しています。本書は、「MINERVA保育実践学講座」(全16巻)の一冊として発刊し、執筆には本学にゆかりのある多くの研究者、実践者に参画していただきました。児童福祉の今後を担う学生とその実習指導担当者に役立つよう、保育行政をめぐる最新動向や昨今の実践事例を紹介しながら、保育所・施設実習について解説しています。(佐藤)

保育実習の展開

ミネルヴァ書房・平成21(2009)年刊 編著:坂根美紀子(神戸親和女子大学教授)、佐藤哲也(基礎教育学系准教授)

Books



こがわまさふみ
古川雅文 教授
基礎教育学系

広島県出身。昭和57(1982)年、広島大学大学院博士課程後期単位修得。広島大学、富山大学の助手を経て、62(1987)年、兵庫教育大学学校教育研究センターの助教授に。平成14(2002)年に同センター教授、18(2006)年には大学院教授に就任。発達心理学の観点から「新入学等の環境移行」を研究している。

古 川先生は学校心理学、発達心理学、キャリア教育

が専門で、学校心理学コースと教職大学院の心の教育実践コースの授業を担当されています。新入学や学校適応に関する多くの研究に取り組まれてきました。先生が担当する「キャリアアカウンセリング特論」は隔年開講

対人関係の基本は「Yes, and」から人として大切なことも学べます

なので、私はまだ先生の授業を受けたことがなく、今年度は一回のゼミに出席しています。ゼミは先生の研究室がある学校教育研究センターで開かれます。センターは附属小・中学校の近くにあり、静かな環境で、設備が充実しています。ゼミ生は大学院2年生が1人、1年生が2人で、研究室はアットホームな雰囲気包まれます。以前、対人関係の話題になった時、先生が「私は、Yes, andを心がけているよ」とおっしゃっ

た言葉が印象に残っています。意見が違ふと思うことがあっても、まず相手を認め、そしてそれを発展させると。研究だけでなく、人として大切なことも学ばせていただいています。

先生の人柄は見た目通り、まじめで穏やか。誰に対しても、どんな内容の話であつても真摯

に話を傾けてくださいます。他コースの先生に「君はどのゼミ?」と聞かれて「古川ゼミです」と答えると、「古川先生、いよね」と返ってきます。研究や授業で忙しい先生は、気分転換が上手です。最新機器を使いこなし、iPodにはお気に入りの落語が入っています。日本酒の造詣も深く、熱く語ってくださいます。さまざまなことに興味を持ち、実行してみるという姿勢が、研究にも生かされているのだと思います。

↓柔らかな口調で的確なアドバイスをしてくださいます



きよしま すみ え
清島純江さん
大学院修士課程
学校心理学コース1年



←穏やかでまじめな人柄は他コースの先生たちからも評判です

Our favorite Professor

人生には、人、出来事、書物などと、さまざまな出会いがあります。その中には、私たちの情動に強く訴えかけるものがあります。特に「これは面白い」「これは楽しい」といった感情は大事です。皆さんはこれから、たくさんの子どもたち、たくさんの人々に出会ふと思います。考えてみると、出会いとは、互いに出会っているのであり、互いに影響を与え合っているのですね。

ゼミや授業は小さな出会いですが、互いに成長し合えるようなものになればと思います。とはいえ、背伸びせず、気楽に、前向きにいきましょう。

先生から
学生たちへ



同窓生からの 手紙

子どもたちの 真の“生きる力”をはぐくむ

三木市の小学校教員になって今春で20年目を迎えますが、新任のこの記憶は今も鮮明です。実習時とは違い、「この教室には、私の授業を見ている人はいない」という不安と喜びは今でも忘れられません。当時、私の一番の心の支えとなったのが、子どもたち一人一人の存在です。クラスの教え子たちはもちろん、社会体育として教えることとなったサッカー部の部員たちが私を見つめる目は、一点の曇りもなく、純粹でひたむきでした。彼らを前にして、教育者としての責任の重さを痛感したものです。

子どもたちの知識や学力を養うことは大切ですが、最も重要なことは社会性をはぐくみ、そして、将来どのように生きていくかという術、本当の意味での“生きる力”を身に付けさせることであると思います。そのためには、教員は子どもの個性を認めながら、一人一人の長所を伸ばしていかなければなりません。これからも、夢を語り、将来のビジョンを明確にしなが、授業はもちろん、さまざまな活動を通して、子どもたちの社会性や生きる力をはぐくんでいきたいです。



かめ い まさ ひろ
亀井正裕さん

三木市立豊地小学校教諭

加西市出身。平成2(1990)年、学校教育学部言語系コースを卒業。附属中学校の国語講師を経て、三木市の小学校教員に。今年度は市立豊地小学校で5年生を担当。12(2000)年から8年間、学部同窓会長を務めた。

↓どんなことでも自分の目で確かめることの大切さを教えています



おお はし ひろし
大橋博さん

学校法人創志学園理事長
兵庫教育大学大学院同窓会長

岐阜県出身。平成11(1999)年に55歳で大学院修士課程教育経営コースに入学。大学4年生だった昭和41(1966)年、学習塾「学習サークル」(現創志学園エディック)を設立して以来、40数年にわたって民間教育に携わる。13(2001)年から現職。昨年6月、第7代大学院同窓会長に就任。

↓昨年、学長を務める環太平洋大学の入学式で、新入生の入学許可を宣言しました



Letters From OB

修了生同士の交流を活発に 同窓会活動を盛り上げたい

大学院時代は、研究者として立派な業績を残していらっしゃる先生方にご指導いただき、教育現場での実践に燃えていたクラスメイトと生活を共にする中で、新しい大学の構想を煮詰めていました。そして、修了から6年後の平成19(2007)年、岡山市に環太平洋大学を創立しました。

この大学は、次世代教育学部と体育学部で構成し、「教育とスポーツの融合」を教育目標に、「18歳になってからの文武両道」をめざすという難しい教育に挑戦しています。次世代の教育者、世界で活躍できるトップアスリートやスポーツ指導者などを育て、教育現場や企業に送り出しています。兵庫教育大学で学んだ方々のように、現場を知り尽くした方にもぜひ教鞭を執っていただければと考えています。

兵庫教育大学大学院同窓会が元気に、あらためて修了生同士の交流が活発になることを一番の目標に、昨年6月から会長を引き受けました。来年度からは、修了生による優れた教育実践研究に対する表彰制度もスタートします。詳しくは、Hyokyo-netの同窓会情報をご覧ください。

▶同窓会からのお知らせ
**今年4月から
「Hyokyo-net」を
全面リニューアル**

修了生・卒業生と大学教職員、在学生などがホームページ上で教育現場の課題や教育研究に関する情報を交換する「Hyokyo-net」が、今年4月に全面リニューアルします。コミュニケーションコーナーが充実し、利便性と操作性が大幅に向上。新コンテンツ「教育時事一問一答」もお見逃しなく。

Hyokyo-net(<http://www.hyokyo.net>)

◎主な利用対象 兵庫教育大学の修了生・卒業生、教職員、在学生 ※一般の方もアクセスできます

📍兵庫教育大学都道府県連携推進本部

☎0795-44-2406 📠0795-44-2009

↓出発して2カ月、日本最北端の北海道稚内市に到着



ふじ もと はる か
藤本晴香さん
学校教育学部
学校心理系コース4年

西宮市出身。昭和62(1987)年生まれ。平成18(2006)年入学。昨年4月から休学し、自転車で日本一周に出発。旅先での出会いや風景写真をブログで発信した。卒業後はオーストラリアを皮切りに世界一周を計画している。



←仙台では路上で弾き語りも

→「旅を機にカメラが好きになりました」。撮影した写真はブログ「HANAの女人旅紀行」(<http://hanaoneline.blog23.fc2.com>)にこまめにアップ



スポット
ライト

自転車で日本一周の一人旅は 自分を見つめ直す機会になりました

「自転車で日本一周」と聞くと、ロードレーサータイプの自転車です。しかし、藤本晴香さんは折り畳み自転車、リュックとギターを背負って、昨年4月から9カ月がかりで全国47都道府県を巡りました。

「私にとって自転車は移動手段の一つであり、旅の目的は各地の人たちとふれあうこと。途中でヒッチハイクも挟みました」
彼女が4年生の今年度を休学して、旅に出たのは、教育実習を通して、将来に疑問を抱いたから。「教員は授業をこなすことに精一杯で、勉強以外のこと、例えばコミュニケーションやあきらめない心の大切さを伝える機会が少なく感じました。私自身、本当に教員になりたいのかと考える時間も少なかったのです」

ブログで日本一周の計画を発表したところ、全国から応援メッセージとともに「こちらに来られた時には会いましょう」との声が多く寄せられました。「親類宅や地方出身の友

人の実家、プログラ仲間などの家を転々としてきました」

行く先々で親交を深め、「毎日が感動と感謝の連続。人の温かさにくさん触れました」としみじみ。歓迎の笑顔に一人旅の孤独感は吹き飛び、ブログのコメント欄の「待ってるよ」の文字に励まされて次の地へ。その道中は、彼女自身がコミュニケーションやあきらめない心の大切さを再確認する機会にもなりました。

現在、旅行中にブログにアップした写真を整理して日本一周を振り返りつつも、早くも次の旅を構想中。卒業後は世界各地を訪ねて見聞を広めたいと話します。

「自分の思いや考えを伝える場所は学校だけではないの思いが芽生えてきました。ただ、教員にならなくても、子どもは大好きなので、将来は旅で体験したことを話したいという願いがあります」

自分探しののために始まった一人旅。その終着はまだまだ先のようです。



うら べ なお か
占部尚加さん
学校教育学部
学校教育系コース2年

マネージャーとして 選手たちがプレーに 集中できる環境を



◀男子バレーボール部の選手、マネージャーたちと(後列左から2番目が筆者)

これに夢中!

高校時代まで選手として部活動をしてきたので、大学では新しいことに挑戦しようと男子バレーボール部のマネージャーになりました。しかし、マネージャーの仕事は想像以上に大変でした。特に、選手がプレーに集中できる環境をつくるのが難しいです。

秋季リーグ戦では苦戦し、まさかの4部落ち。選手たちは明るく振る舞っていますが、胸中は闘志や悔しさでいっぱいのはずです。春季リーグでの再昇格を期し、縁の下からチームを支えたいです。

マネージャーの仕事を通して、周りのいろいろなことに目を配り、気がつくようになりました。この経験は普段の生活はもちろん、将来、教員になっても生きてくると思います。

お気に入り スポット

みなみ り な
南里奈さん
学校教育学部
言語系コース4年



↑「日替わりの松花堂をぜひ味わってください」(左が筆者)

隠れ居食屋ごうまるさん-503-

社簡易裁判所の近くにある、名前通り、隠れ家のような店です。お薦めはランチの日替わり松花堂。おいしくて、バランスも良く、しかも600円とお手ごろ(ただし、限定20食なのでお早めに)。夜に友人たちとお酒を飲むのも大好きです。皆さんもおいしい鍋をつつきながら楽しいひとときを過ごしてみませんか。きっとお気に入りの一軒になると思います。



ちん い ぶん
陳瑋文さん(台湾)
学校教育学部
社会系コース特別聴講学生

高校時代から日本のドラマなどの番組を通して、日本語に興味を持ち、独学で勉強しました。昨年10月、特別聴講学生として入学するため、初めて来日しました。日本食はすしや焼き焼が気に入っていますが、全般的に台湾と比べて味が甘めですね。日本の紅葉や寺院の景色も好きです。帰国するまでに、日本の文化と生活をもっと体験し、日本人のことも深く知りたいです。将来はまた来日したいと思っています。



↑昨秋の大学祭では留学生同士で母国の料理を振る舞いました

留学生
リ
レ
メッセ
③



「商店街の
寺子屋」
に潜入!

小野市では放課後の小学生が集う「商店街の寺子屋」を開設しています。兵庫教育大学の学生も運営に参画し、宿題を教えたり、一緒に遊んだりしています。



←まさに散らかし放題。紙の雪が宙に舞います

子どもたちと学んで遊んで 放課後を充実した時間で



←小さくなっていく新聞の上に立っていられるかな



←雪だるまを囲んで「はい、チーズ!」

小野市教育委員会は平成20(2008)年から、小野商店街にあるコミュニティセンターおの分館「よって吉蔵」で、放課後の小学生が学び遊ぶ「商店街の寺子屋」を始めました。地域団体などが日替わりで、昔遊びやゲーム、畑仕事などで子どもたちと交流。水曜を担当しているのが兵庫教育大学のネイチャーサークルです。同サークルは主に小学生のキャンプの指導員として活動していますが、数年前に小野の市民祭りに参画したのが縁で、寺子屋の運営にも声が掛かりました。

「学生さんは教育実習を積んでいるので子ども心をつかむのが上手ですね」と話すのは寺子屋コーディネーターの宮脇京子さん。年度初めに小野小学校と小野東小学校の児童を対象に年間の参加者を募ったところ、水曜はすぐに定員の20人に達したそうです。「保護者には教育大学という安心感がありますし、子どもたちにはお兄さん、お姉さんと遊べるのが受けたのでしょうか」

午後3時、よって吉蔵に集まってきた子どもたちは宿題に取り掛かります。学生たちは傍らで見守りながら、考え込んでいる子にはアドバイスを送ります。「低学年には自分の考えをうまく言葉にできない子もいます。寺子屋で活動を始めてから、その子が何を思っているのか、表情をよく見るようになりました。また、こちらの気持ちもちゃんと伝えるため、表情を豊かにするように努めています」と語るのはサークルの代表、根本雄也さん(学校教育学部自然系コース3年)。

宿題が終わればお待ちかねのゲームの時間です。この日は和田守拓馬さん(学校教育学部幼年教育系コース2年)が古新聞を使った遊びを企画しました。まずは「新聞乗りゲーム」。子どもたちは広げた新聞紙の上に立ち、和田守さんとじゃんけんをして負け

「心理・発達相談」

「教育相談」

のご案内

◎臨床心理相談

子どもの不登校や発達障害、大人のストレスなどに関する相談に応じます。相談員は臨床心理士の資格を持つ教員や児童精神科医、心理臨床を学ぶ大学院生です。

◎場所 発達心理臨床研究センター

神戸サテライト臨床心理相談室

◎料金 1,000円～5,000円(1回50分)

◎学校カウンセリングルーム

「不登校」「いじめ」「非行」「進路・就学」「学習の問題」などに悩んでいる子どもとその保護者、教員を対象に、遊戯療法や箱庭療法などを通して相談に応じます。無料。

◎場所 学校カウンセリングルーム

◎学校なんでも相談室

「勉強(学習)の悩み」「友人関係の悩み」「不登校」「習慣や行動の悩み」など、学校にまつわるあらゆる相談に応じます。アドバイス、情報提供、専門家や専門機関の紹介などにより解決方法を探っていきます。無料。

◎場所 学校教育研究センター

いずれも予約制です。詳細は兵庫教育大学ホームページ(<http://www.hyogo-u.ac.jp>)をご覧ください。※トップページの「地域の方へ」をクリック

N e w s

教育データアーカイブ「JEDI」に国内外の専門家から高評価

兵庫教育大学「教育・社会調査研究センター」は昨年11月22日、神戸国際会議場で国際シンポジウム「データアーカイブと学術研究・政策推進・事業利用のための国際協力」を開催しました。同センターが7月から試験運用を開始した日本初の教育データアーカイブ「JEDI」の国内外の大学等研究機関への無償提供とともに、日本学術データアーカイブ・ネットワーク(仮称)の創設を提案したところ、米欧日の専門家から「JEDIは世界トップ水準のアーカイブ・システムであり、教育に特化した専門データアーカイブ創設の意義は大きい」と高く評価されました。JEDIは統計分析ソフトRを新機能に加え、今年4月から本格運用の予定。今後は国内外に発信するとともに、収集データの一層の充実を図っています。

JEDIの詳細についてはホームページ(<http://essrc.hyogo-u.ac.jp/archive/>)を参照。

学生クラブ・団体の主な地域交流・貢献活動一覧

団体名	活動の目的・概要	平成21年度に参加した主な地域イベントなど
女子サッカー部「クーガーズ」	サッカーを通して青少年の健全な発達に貢献	毎週木曜に地域の子ども(発達障害のある子どもも含む)を対象に加東キャンパスのグラウンドでサッカー教室を開催
サッカーチーム「メイファーズ」	サッカーを通して青少年の健全な発達に貢献	毎週木曜に地域の子ども(発達障害のある子どもも含む)や留学生とともに加東キャンパスのグラウンドで練習と紅白戦
チアリーディング部「VIGORS」	地域のイベントに出演。子どもへのダンスの指導も	加東市民体育祭(9月)
バドミントン部	子どもにバドミントンを指導	スポーツクラブ21かものがわ(毎月第1・3金曜)
ボランティアサークル	主に加東市内の子ども会活動や福祉活動に参加し、企画や運営補佐などを担当	小野市立コミュニティセンターおおの「ふれあいポプラの子」の指導員(月1回)、鴨川桜まつり「ちびっ子ゲーム」(4月)など
よさこい部「チーム鬼灯」	地域のイベントや祭りに出演。地域の人たちによさこいを指導	頼政祭(4月)、平池公園夏のフェスティバル(7月)、小野まつり「おの恋おどり」(8月)、加東市秋のフェスティバル(11月)など
囲碁・将棋・頭脳スポーツ研究会	さまざまな頭脳スポーツを通して、園児や児童の知的活動の活性化を図る	稲美町児童館将棋教室(8月)
吹奏楽部	定期演奏会やクリスマスコンサートを開催。地域のイベントにも出演	加東プラスフェスタ2009(7月)、加東市秋のフェスティバル(11月)、～吹奏楽～school楽演奏祭V(1月)など



▶ネイチャーサークルの面々(後列右が根本さん)。メンバーはニックネームを書いた名札を首から下げています

れば半分に折っていき、足元が小さくなってもし続けられるかを競い合います。

続いて、新聞紙を紙つぶきのようにちぎっての「雪遊び」。子どもたちは床一面に積もった紙の雪に滑り込んだり、両手ですくって頭上に放り投げたり。家でも学校でもできない遊びに大はしゃぎです。さ

らさん楽しんだ後はみんな後片付け。2枚の白いポリ袋に紙くずを詰めてまん丸にします。それを上下に重ね、マジックで顔を描けば雪だるまの出来上がり。最後まで飽きさせない仕掛けに子どもたちは大喜びでした。

「20人の子どもの中には途中で来なくなってしまつた子もいます。友達と遊ぶことに夢中になっているのかもしれない。ただ、寺子屋は異世代とふれあう貴重な機会。僕たちももっとアイデアを凝らし、楽しい時間を提供していきたいです」と根本さん。

夕方6時、保護者が迎えにやって来ました。学生たちは家路に着く子ども一人一人に「また来週ね」と手を振り続けました。

◎平成22年度大学院第2次学生募集

☆学校教育研究科

修士課程

◎学生募集人員

▶学校教育学専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人
幼年教育コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人
学校心理学コース	昼間クラス	3人
	夜間クラス	若干人
臨床心理学コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人
▶特別支援教育学専攻		
心身障害コース		若干人
特別支援教育コーディネーターコース		3人
▶教科・領域教育学専攻		
言語系コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人
芸術系コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人
生活・健康・総合内容系コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人

専門職学位課程(教職大学院)

◎学生募集人員

▶教育実践高度化専攻		
学校経営コース	昼間クラス	3人
	夜間クラス	若干人
授業実践リーダーコース	昼間クラス	10人
	夜間クラス	若干人
心の教育実践コース	昼間クラス	4人
道徳教育・進路指導、 生徒指導・教育相談、学級経営など	夜間クラス	若干人
小学校教員養成特別コース		若干人

◎出願期間 2月15日☎～19日☑(必着)

◎試験日 3月7日☑(筆記・口述)

◎合格者の発表 3月19日☑16:00

※昼間クラスと夜間クラスのあるコースは昼夜開講制です。昼間クラスは加東キャンパスで、夜間クラスは主に神戸サテライト(神戸市中央区)で開講します(昼間と夜間を区別していないコースは昼間クラスのみです)。

※言語系コースには国語分野と英語分野、自然系コースには数学分野と理科分野、芸術系コースには音楽分野と美術分野があります。

☎入試課 ☎0795・44・2354, 2067

◎大学院入学相談室

大学院学校教育研究科(修士課程、専門職学位課程)への入学希望者を対象に相談(30分程度)を受け付けます。

◎開設日 毎週木曜(1週間前までに要予約)

◎場所 神戸サテライト(神戸市中央区)

☎☑企画課

☎0795・44・2359 ☎0795・44・2009

☑office-kyoshoku@hyogo-u.ac.jp

◎学部卒業演奏会

今春卒業する音楽コースの学生が4年間の研究の成果を披露します。入場無料。

◎日時 2月13日☑14:00～(13:30開場)

◎場所 兵庫教育大学講堂

☎学生支援課

☎0795・44・2050 ☎0795・44・2049

◎教育実践学フォーラム

～学校教育の諸問題と可能性を求めて～

テーマ「細胞と分子の織りなす知能発達:脳の形成・発達研究でわかったこと」。最近、話題の「脳科学」にスポットを当て、第一線で活躍している研究者が「教育-脳科学からのアプローチ」について語ります。無料(要申し込み)。

◎日時 2月27日☑14:30～16:00(受付14:00～)

◎ゲストスピーカー 佐藤真さん(福井大学生命科学複合研究教育センター長・同大学医学部教授)

◎場所 キャンパス・イノベーションセンター大阪3階

◎対象 研究者、大学院生、教員など

◎申込方法 メールまたはファクスで受け付けます。表題を「フォーラム申し込み」とし、氏名、年齢、職業、連絡先(電話・ファクス番号、メールアドレス)を明記してください。

☎☑連合大学院事務局

☎0795・44・2068 ☎0795・44・2269

☑office-rendai-r@hyogo-u.ac.jp

http://www.program.jgssse.jp/event/2009-7

◎兵庫教育大学美術展

学部生、大学院生、附属幼稚園・小学校・中学校の児童生徒による合同作品展。入場無料。最終

日にはギャラリートークも。

◎日時 3月3日☎～7日☑10:00～18:00
(最終日は15:00まで)

◎場所 兵庫県立美術館ギャラリー
(神戸市中央区)

☎学生支援課

☎0795・44・2050 ☎0795・44・2049

◎吹奏楽部第26回定期演奏会

吹奏楽部の学生が日ごろの練習の成果を披露します。

◎日時 3月6日☑14:00～(13:30開場)

◎場所 小野市うるおい交流館エクラ

◎入場料 大人1,000円、中高生500円
(小学生以下無料)

☎学生支援課

☎0795・44・2050 ☎0795・44・2049

◎事業成果報告会

～兵庫教育大学教職大学院と学校現場とのコラボレーションによる高度専門職業人としての教員養成～

◎内容 発表、事業説明、報告・意見交換会

◎日時 3月6日☑14:00～16:45(受付13:30～)

◎場所 神戸国際会館9階

◎対象 教育委員会関係者、連携協力校関係者、大学院生、教員など。無料

◎申込方法 メールまたはファクスで受け付けます。表題を「事業成果報告会申し込み」とし、氏名、住所、職業、連絡先(電話・ファクス番号、メールアドレス)を明記してください。

☎☑教育実践コラボレーションセンター

☎0795・44・2311 ☎0795・44・2313

☑office-res-collabo@hyogo-u.ac.jp

◎教員就職率が6年連続で全国第1位に

昨年12月9日に文部科学省が発表した「国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)の平成21年3月卒業生就職状況」で、兵庫教育大学の教員就職率は84.9%と、6年連続で全国第1位に輝きました。全国平均は前年比0.1ポイント減少の56.6%で、前年並みの就職率を維持しています。

兵庫教育大学では、これからも教員採用試験対策講座の開講、後輩へのアドバイスを含めた受験報告書の集約、就職の手引きの作成などに力を入れ、就職支援の強化を図ります。

編 集 後 記

●今号は読者アンケートを企画し、そのご回答を重要なエビデンスとして捉え、誌面づくりの評価と改善に生かしていく所存です。寒気到来と風雪を報じる天気予報に、高校生だったある雪の朝、担任の先生が板書された大伴家持の歌を思い出しました。「あたらしき年のはじめの初春の今日降る雪のいやしげ吉事」。降り積もる雪のように、この一年、吉事が重なりますように。(あ)

●ある広報講演会の終盤に講師の方が突然、「タカラジェンヌが美しいのはなぜでしょう」と。理由の一つが「普通よりも1.3倍の歩幅で歩くから」。こんな時代だからこそ、少し頑張て大きく踏み出す勇気が活気を生むのではないのでしょうか。背筋も伸びて少し先が見えるような気がしませんか。本誌のバックナンバーは本学ホームページ(<http://www.hyogo-u.ac.jp>)をご覧ください。(に)

◎おわび

前号の「キャンパス通信」のスポットライトで、鎌田美由紀さん、美樹さん母子を「同時期に親子が学生として在籍したのは初めて」と紹介しましたが、以前にも同時期に親子で在籍していた方がいらっしゃいました。関係者ならびに読者の皆さまにおわびいたします。